

勝浦運転区廃止攻撃粉碎 2万人署名を!

すでに勝浦市民 七千名が署名!

勝浦運転区の存続を求める勝浦市民の署名は、六月一三日時点で七〇〇〇名に達した。毎日のように続々と署名が集まっている。取り組み開始からわずか十日間で、勝浦市の人口二万四千名、有権者一万九千名のうち七千名の署名が集まるなど、未だかつてないことだ。勝浦支部組合員が文字どおりの総行動で市内を駆けめぐり、奮闘している。これからの六月後半戦、二万名に全有権者数を超える署名獲得に向けて、全力で取り組みを強化しよう。

この闘いは、次期ダイ改に向けた半年間の決戦の第一歩だ。地域をあげた反対の声を結集し、職場からの闘いと結合して、「鴨川運輸区」新設―勝浦運転区廃止攻撃を粉碎しよう!

水野さんが 市議会で質問!

「闘争本部ニュース」でも報じたとおり、六月九日から始まった勝浦市議会には、動労千葉鶴岡支部長によって「勝浦運転区の存続を求める決議に関する請願」が提出された。この請願は、十四日の総務常任委員会のなかで採択された。

また、これに先だって水野さんは、十二日に開かれた本会議の一般質問において、ローカル

線の切り捨てと勝浦運転区廃止問題について質した。市長答弁でも、「市としてもJRに対し勝浦運転区の存続を要望していく」との回答が行なわれた。勝浦では、市民・議会をあげて勝浦運転区の廃止に反対する状況が作りあげられつつある。

焦りにかられた 当局―JR総連

一方、当局―JR総連は、運動の予想を超えた広がりにあせりにかられた動きをはじめている。当局・JR総連ぐるみで市議会議員になった岩瀬議員（JR総連の組織内議員となつている）が千葉支社の運輸部長、総務課長をつれ、菓子折りなどをもって、市の有力議員宅を回りはじめたのだ。市議会で反対決議があがるような状況を何とか止めようとして姑息に動きだしたのである。

これまで、駅の無人化を強行し、次々とローカル線を切り捨てるときなどは、一言も地元の見聞などを聞かず一方的に強行してきたにもかかわらず冗談ではない。しかし、このようなやり方の方々に、「鴨川運輸区」新設攻撃の本質が一層明らかになつていけると言える。

「仮詰所」の着工 を弾劾する!

千葉支社は、十二日、「仮詰

所」の着工を強行した。断じて許すことはできない。しかも、その一方で、動労千葉が提出した「鴨川運輸区」をめぐる様々な問題の解明を求める申し入れに対しては、提出から半月以上経つにもかかわらず、未だ団交の日程すら入れようとない対応が続いてきた。意図的に団交を引き延ばしているのしか考えられない。昨日、千葉支社は、ようやく団交日程の調整について二九日か三〇日だというのだ。二九日には、「鴨川運輸区」をめぐる新たな提案が行なわれることになつている。つまり、当局側からの説明をするめまでは、組合の申し入れには一切答えなという構えなのだ。

一から十まで 不当労働行為!

しかも、千葉ではこのような一切を隠し通す対応が続くなかで、「鴨川運輸区」ができたときには、堀内某、忍足某など、千葉から東京に通動しているJR総連分子を送り込むなどというウワサまで公然と流れている。「鴨川運輸区」新設は、そのものが、一から十まで不当労働行為に他ならないことがいよいよはっきりしてきた。「鴨川運輸区」新設―勝浦運転区廃止を絶対に阻止するぞ! 勝浦支部の奮闘に答え、全支部の総決起を実現しよう!

JR東日本は、六月一四日、九五年夏期手当てについて、

次の通り回答を行なってきた。

基準内賃金の二・六カ月(六月三〇日以降準備出来次第)

動労千葉第三四回定期委員会

日時 六月一七日(土) 一三時

場所 千葉県物産センター

新たな動労千葉解体攻撃を粉碎しよう
勝浦運転区廃止攻撃を断じて許すな!